

教職課程は「人づくり専攻」

教授 野々口 浩幸

令和2年。現在の4年生が入学した年は、まさに新型コロナウイルスによって日常の生活が、そしてあるべき学生のキャンパスライフが奪われた最初の年でした。入学式は実施されず、5月のゴールデンウィーク明けにようやくZoomによる授業が開始されましたが、この間ひとりアパートで不安な日々を過ごした学生が多かったのではないかと思います。

令和3年4月から、様々な感染防止対策を講じた上で、対面式の授業が再開されるとともに、マスク越しではありますが学生同士、教職員と学生との交流が図られるようになりました。そして令和5年。若干の制約がありながらも、私たちはようやく日常を取り戻すことができました。

令和6年の元日。石川県能登半島周辺が大きな地震に襲われ、津波や土砂崩れ、大規模な火災が発生しました。家屋の倒壊や焼失によって多くの人々の日常が奪われました。こうした状況の中、親元を離れ、他の地域に避難する選択をした子どもたちがいます。小学生や中学生にとって親元を離れて生活する不安や寂しさは計り知れません。一方で日々の生活を送ることすら困難な被災地に残り、家族と共に過ごす決断をした子どもたちもいます。

被災地の教員はどうしているのでしょうか。自ら被災しながらも、家族を守り、避難所運営に携わり、再開した学校に子どもたちを迎え、支えようと奮闘しています。中には他の地域に避難した子どもたちと一緒に移動し励ましている教員もいるのです。

私は常々、教職課程は「人づくり専攻」であると言ってきました。教師は、教師である前に一人の人間であり、まずは人として大切なこと（基盤となる力や心のあり方）を備えておかなければなりません。その上に、教師としてのマインド、そして専門的な知識やスキルを上積みしていかななくてはならないと思うのです。そうでなければ、教育的な愛情をもって子どもたちを教え導き、育てることなど到底できないからです。

では、人として大切なことは何でしょうか。

その一つに「自らをコントロールする力」があると思います。この力が備わっていれば、感情を抑制しながら周囲の状況に応じて行動できるようになります。また、自らをコントロールすることにより、筋道を立てて考えたり、多少の困難に際しても粘り強く取り組むことができるようになるとも言われています。実はこの力は「自分のことを大切にすること」ということにもつながることだと思っています。

二つ目は「人を大切にすること」ではないでしょうか。利害関係の対立やトラブル等に際し、人は、自分の立場を優先し、相手の気持ちに思いが至らず、相手の言葉に耳を傾けない状態になってしまうことがあります。常日頃から、心に余裕をもち、自分自身が相手の目にどのように映っているのかを意識したいものです。「言うべきことを言い、聞くべき事を聞く」自分と同じように人を大切にすることで、良い人間関係が育まれます。良い人間関係は人生を豊かにしてくれます。フランスの詩人・小説家のヴィクトル・ユゴーは「人生最大の幸福とは愛されていると確信することだ」と述べています。私は、人に愛されるためには、人を愛することが必須だと思っています。「人を大切にすること」を持ちましょう。



どんな職業に就くにせよ、人として大切なことを備えておくべきです。ましてや、教職の道を選んだあなたは、教壇に立ったその瞬間から、目の前の子どもたちのリーダーであり、目指すべきモデルとなります。人として大切なことを、身をもって子どもたちに教える存在とならなければならぬ存在となるのです。

教職課程は「人づくり専攻」。教職課程の学びが皆さんの成長につながっていれば望外の喜びです。

教職実践演習を終えて…

教員免許取得の日（卒業）も間近です

◎「教職実践演習」を終えて

10月5日(木)を皮切りに計8回実施された「教職実践演習」の授業が11月30日(木)をもって終了しました。この科目は、基本的に4年次に設定されるもので、目的は、教育実習を含むそれまでの学びを踏まえて、まだ十分に身につけていない知識やスキルを補い、4月から始まる教員や社会人としての生活を不安なくスタートできるようにすることです。そういう意味では、「教職実践演習」は、教職課程の学びを完結させる最終ゴールの科目と言えるのではないのでしょうか。

次の全体計画に示したように、授業のテーマも喫緊のテーマばかりで、専門性の高い学外講師もお招きして熱心にご指導をいただきました。

また、授業の中では、最初にテーマについて自分の考えをしっかりと持ち、それをグループ協議を通して深め、さらにその考えを共有しながら、最終的にみんなが最善の解決策を見いだしていくという過程を大事にしてきました。授業は毎回2コマ続きでしたが、これもこれらを実現するための方策であったことは言うまでもありません。

皆さんが4月から仕事をしていく中では、きっと難題にぶつかることもあると思います。その時には、重大な問題ほどじっくり考え、個人の努力のほかに、同僚と協働して解決を図っていく方法を思い出してほしいと願っています。

◎年齢の近い4人の先輩（卒業生）をお迎えして……



教職実践演習の8回の授業の中で、学生たちが一番リラックスして授業に臨んでいたのは、先輩（卒業生）の皆さんを講師としてお迎えして実施した授業でした。

今年度は11月11日(土)の午後、4人の先輩方においていただき4月から教員や社会人になるに当たっての心構えや留意点、卒業までにやっておくべきこと等について、ご自身の体験を交えてお話をいただきました。

職場の飲み会に役立つ作法にまで話題が及び、たいへん楽しい授業になりました。



↑秋田県立能代松陽高校 教諭 太田優喜さん



↑横浜市立六角橋中学校 教諭 岡千陽さん



↑秋田魁新報社 勤務 鈴木裕斗さん



↑平野政吉美術財団 勤務 齋藤寧々さん

令和5年度 教職実践演習 全体計画

回	月	日	曜	限	内 容	講師等
①	10	5	木	4	学級崩壊やいじめ・不登校を未然に防ぐ手立て①	(本学) 野々口浩幸 教授
				5	学級崩壊やいじめ・不登校を未然に防ぐ手立て②	
②	10	12	木	4	学校と関係機関との連携	(上越教育大) 早川裕隆 教授
				5	保護者対応－相談関係の構築－	
③	10	19	木	4	ICTを活用した美術科授業①	(本学) 尾澤 勇 教授
				5	ICTを活用した美術科授業②	
④	10	26	木	4	学校教育におけるICTの活用	(上越教育大) 清水雅之 教授 赤坂真二 教授
				5	学級経営と学級開き	
⑤	11	2	木	4	学校運営組織における義議教諭との連携①	(秋田市立河辺中) 渡邊文子 義議教諭
				5	学校運営組織における義議教諭との連携②	
⑥	11	11	土	3	教職の意義と教員の責務①	(本学卒業生) 太田優喜さん 岡 千陽さん 鈴木裕斗さん 齋藤寧々さん
				4	教職の意義と教員の責務②	
⑦	11	16	木	4	教職員不祥事の未然防止①	(本学) 渡部克宏 特任教授
				5	教職員不祥事の未然防止②	
⑧	11	30	木	4	学校における緊急対応	(本学) 毛内嘉威 教授
				5	理想の教師像と私	

◎ 教員免許を取得にあたって

教職課程で修得すべき単位を全て修得し、「教育職員免許状申請」の手続きを済ませると、あとは秋田県教育委員会から教員免許が交付されるのを待つだけです。ただし、大学を卒業することが必須条件となっていますので、実際は、卒業式(3月18日)の受付において封筒に入った形で受け取ることになります。

ちょっと早いですが、教職課程を4年間やり遂げて、無事に教員免許を取得される(予定の)皆さん、本当におめでとうとございます。教員免許は、自身が教員になる資格のある人間になったという証でもあります。どうか、教員になる人はもちろん、別の道に進む人もこれからの人生を自信をもって歩いてほしいと願っています。卒業生の皆さんに幸多かれと心からお祈り申し上げます。

した表情で自身の実習を振り返り語る姿でした。その姿に頼もしさすら感じたものです。ここまで並々ならぬ苦労と努力があったかと思いますが、教職課程で得た学びを是非、これからの人生の中でもフルに生かしてほしいと思います。 大関智子(助教)

ご卒業おめでとうございます。皆さんとは3年間のお付き合いでしたが、教育実習指導担当として実習中の研究授業を参観させていただいた初めての学年でしたので、皆さんのことは一生忘れません。また、今年度の「教職実践演習」の授業では、皆さんがいつも課題に対して深く考え、グループでさらに深め、中身の濃い発表につながっていました。「やっぱり4年生はレベルが高い!」と感心していました。そんな皆さんの成長と教員免許取得を心からお喜び申し上げます。 齋藤 透(特任教授)

20年：コロナ猛威、緊急事態宣言、新しい日常、鬼滅の刃、安倍→菅。21年：一年遅の東京五輪、ワクチン接種、真鍋淑郎ノーベル物理学賞、菅→岸田。22年：ウクライナ侵攻、円安・資源高、ChatGPT、安倍元首相銃撃、五輪汚職。23年：WBC、イスラエル、ハマス軍事衝突、コロナ5類、処理水中国反発、裏金疑惑。

Francis Wayland 著The Elements of Political Economy”(→Moral Science)” 良心が咎めるのは神様からのメッセージ”。“By Science, as the word is here used, we mean a systematic arrangement of the laws which God has established, so....” 山脇 聡(特任教授)

卒業を目前に控えた今、やるだけやったと満ち足りた思いの人がいる一方で、思い描いていたことと違った、自分はこの道に合わないことが分かった、と苦い思いを抱いている人もいますでしょう。紆余曲折、迷い続けた4年間だった人もいるかもしれません。でも皆さんは4年前に比べて視野が確実に広がり、現実の困難さと理想の美しさをより深く理解できるようになったはずです。苦、楽、挫折、感動、それらすべてをひっくり返して自分の4年間を肯定してあげてください。皆さんの活躍を祈っています。 渡部克宏(特任教授)

一を知って 二を知らぬなり 卒業す
高浜 虚子

まだまだです。
これからです。
勉強です。
私もです。

AKIBIで育んだ“想像”と“創造”の翼をはためかせて、可能性への挑戦を続けてください。

卒業、おめでとうございます!!

加賀谷 亨(特任教授)

「創り出す」ってすごいことだと思います。稀にひらめきとセンスでサッとできてしまうこともあるでしょうが、大抵は何かを参考にしたり、何かを組み合わせたりのしながら、試行錯誤を繰り返し、苦労と苦悩の末にやっと完成させるものなのだと思います。一方で、膨大なエネルギーと時間を費やしながらも完成に至らなかった経験もあったことでしょう。そんな日々を送った4年間が、今後のあなたを力強く支えてくれるはずですよ。

嶋崎公人(特任教授)

4年生の皆さんが入学された年はコロナ禍がちょうど始まった年でもありました。授業が遠隔になるなど、三密を避けた大学生活が大半を占める中で、苦労されたことと思います。4年間、授業サポートを通して皆さんを見てきましたが、教職課程最後の授業となった教職実践演習では、課題を的確に捉え、一人一人が自分の意見を堂々と発表する姿に、これまでの成果を感じました。教職課程を通して得た経験が、今後の人生の糧となることを祈っています。

ご卒業おめでとうございます。

日野沙耶(助手)

宮沢賢治は詩人・童話作家であり、花巻農学校の教師でもありました。賢治は口癖のように生徒たちに「実際問題ですよ、実際問題です」「よく考えてご覧なさい」と言っていたそうです。芸術もまた然りです。皆さんが作品を制作したことや研究したことはこれで終わったわけではないでしょう。これからは様々な困難があると思いますが、それを経て、さらに深まっていくことを願っています。

卒業、おめでとうございます。竹本悠太郎(助手)

4年生の皆さんにとって秋美での大学生活はどのような時間だったでしょうか。資格課程を履修した皆さんは授業のコマ数も多く、専攻での授業や制作活動との両立はとて大変だったことと思います。

大学で得た学びや友人は一生モノだと私は思っています。切磋琢磨し、仲間と励まし合いながら獲得した知識や技術を、これから進んでいく社会に向けての糧とし、新生活を送ってほしいと思います。そして、これからもたくさんの“わくわく”に出会ってください。わくわくする気持ちは生きる原動力、生きる意味になります。皆さんの活躍を心から応援しています! 卒業、おめでとうございます。

阿部ゆかり(助手)